

2 一般的な学習指導過程

<p style="writing-mode: vertical-rl; font-size: 2em; font-weight: bold;">導 入</p>	<p>※ 本時の主題に興味や関心を持たせたり、学習の動機付けを図る段階</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: flex-start;"> <div style="width: 45%;"> <p>導入の3つの役割</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 本時の主題にかかわる問題意識をもたせる。 2 資料の内容に興味や関心をもたせる。 3 学習への雰囲気作り。 </div> <div style="width: 45%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center; font-weight: bold;">具体例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活体験を想起させ、発表 ・事前アンケートの結果の提示 ・資料に関する絵画や写真、VTR ・音楽を聴く ・ねらいにかかわる新聞記事、児童作文、詩や短歌 ・地域の人々の話 ・実験や観察など実物にふれる体験など </div> </div> <div style="margin-top: 20px; display: flex; align-items: center;">  <div style="border: 1px solid black; background-color: #f0e6ff; padding: 10px; flex-grow: 1;"> <ul style="list-style-type: none"> ○ 短時間で効果的に行いましょう。 ○ 展開の部分とのつながりを考え、展開がより効果的になるような導入を工夫しましょう。 </div> </div>
<p style="writing-mode: vertical-rl; font-size: 2em; font-weight: bold;">展 開</p>	<p>※ 主題のねらいを達成するための中心となる段階</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 資料提示（具体的事例→P9） <ul style="list-style-type: none"> ○ 資料提示の方法としては、教師による読み聞かせが一般的に行われています。 <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 45%; border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>その際、以下のような工夫が児童の理解の手助けとなります。（特に低学年）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙芝居のように提示 ・影絵、人形やペープサートなどを生かして劇のように提示 ・音声や音楽の効果を生かす工夫 ・ビデオなどの映像による提示 </div> <div style="width: 45%; border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>教師の読み聞かせを聞くときのポイントを事前に児童に示しておく、理解の手助けになります。</p> </div> </div> 2 話合い（具体的事例→P16） <ul style="list-style-type: none"> ○ 提示された資料をもとに話し合い、道徳的価値の自覚や自己の生き方について考えられるようにします。



Point

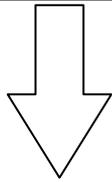
- 道徳の時間は、児童一人一人が道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、道徳的実践力を主体的に身に付ける時間です。主人公の気持ちに共感させるだけでなく、児童が学習していることを自分とかわりのあることとしてとらえられるようにしましょう。
- 展開の後半で、自分のことについて振り返る時間をとることもあります。

展

◎ 発問の構成について（具体的事例→P12～）

発問は、ねらいを達成するために、全体を一体的に捉えられるようにして構成しましょう。

発問1（中心的な発問を生かす発問）



発問2（中心的な発問）



発問3（中心的な発問を生かす発問）

— 発問を考える手順 —

- ① 中心的な発問を考える。
・授業のねらいに強くかわる発問（中心的な発問）を考えます。
- ② 中心的な発問を生かす前後の発問を考える。
- ③ 補助発問を考える。

開



Point

- 発問の数は、3つとはかぎりません。また、中心的な発問が常に2番目に位置付けられるともかぎりません。
- 児童が道徳的価値の自覚及び自己の生き方について考えられるようにするためには、どのような発問をどの段階であればよいのか、明確な指導観をもち、児童の実態に即して考え、発問を構成することが大切です。

